

次世代ワーキンググループ NEWS

まちづくり“夢”新聞

Vol.2

平成26年8月10日

(発行元)

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

旭川市1条通8丁目 フィール旭川7階

TEL/FAX 26-0338

(委託者)旭川市総合政策部総合計画課

【次世代ワーキンググループとは】

現在、旭川市が進めている次期総合計画の策定に向けて、未来を担う子どもたちが主役となり、自分たちが考える旭川市の理想や想いを市に提言するため、市内の小学生・中学生・高校生が集まり次世代ワーキングが発足しました。次世代ワーキンググループは、7月27日、8月10日、8月12日の3日間活動します。

○次世代ワーキンググループ2日目！

8月10日(日)9:30から、フィール旭川7階で次世代ワーキンググループの2日目が始まりました。

今回は、台風が近づきあいにくの曇り空でしたが、小・中・高校生は元気いっぱいです。

○発表会に向けて

午前中は、午後の発表会に向けて1日目に行ったインタビューの内容をまとめました。それぞれの班がインタビュー先のこと、学んだこと、質疑応答の内容などを振り返り、小中高生それぞれの個性を生かしたポスターやスライドを作り、発表の準備を行いました。小学生はいろんなペンを使ってカラフルにしたり、写真やイラストを入れてかわいらしいポスターを作りました。中学生は、模造紙の使い方を工夫したり、波線などを効果的に使い、見やすくわかりやすいポスターを作成しました。高校生はパソコンのプレゼンソフトを使い、インタビューで聞いたことを分かりやすく整理しました。



○災害時の非常食を初体験

午前中の最後に、市の職員から災害時の非常食である「アルファ化米」についての講演をしていただきました。

今回は実際に五目御飯を用意し、子どもたちもアシスタントとなり、災害時にどのように調理するのかを実演していただきました。

子どもたちは、旭川市には非常食が2万食分あることや、お湯が出ない環境でも食べられること



など、新しいことをたくさん知りました。災害が比較的少ないと言われている旭川ですが、防災知識を身につけることは、自分や周囲の人を守るために非常に大切なことだということを改めて知ることができました。

この後、子どもたちはお昼のお弁当と一緒に五目御飯を食べました。意外と？美味しく、2杯3杯とおかわりする子もたくさんいました。

○発表会！

13:00 から、いよいよ本日のメインイベントである発表会が始まりました。

それぞれの班が特色のあるポスター等で演出を凝らし、発表を行いました。

ここからは、班ごとの発表を簡単に紹介します。

【旭川市科学館サイバル】:小学生 1 班

さまざまなペンを使ったカラフルなポスターで、サイバルの歴史や魅力、自分たちの学んだことを発表しました。子どもたちには科学を好きになってほしい、大人には科学を理解し、暮らしに役立ててほしい、というサイバルの願いが伝わりました。



【大番寿司】:小学生 2 班

Q&Aを中心に、ポスターを使って発表しました。ポスターには、お寿司のイラストや思い思いのキャラクターが描き込まれており、楽しく賑やかなものになりました。子供たちは、買物公園を盛り上げるお店の存在や作る人の思いのこもったお寿司の存在を知ることができました。

【正和電工】:小学生 3 班

『旭川環境新聞』というタイトルのポスターで発表を行いました。新聞という名の通り、大きな見出しや Q&A、図などを使った、たくさんの工夫が散りばめられたポスターになっていました。水を使わないバイオトイレに子どもたちは、「びっくりした！」「すごいと思った」など、素直な感想を語っていました。



【旭川市老人クラブ連合会事務局長・大森さん】:中学生 1 班

旭川市の高齢者問題を課題・原因・解決策に分けてポスターを作成し発表しました。中学生らしいしっかりとした内容で、将来旭川が「人とつながる旭川」になって欲しいとまとめていました。

【遠友塾事務局長・豊島さん】:中学生 2 班

画用紙を貼り付け、インタビューの内容をわかりやすくまとめたポスターを使って発表しました。豊島さんからは「誰でも自由に学習できる場所を増やすべき」というお話を聞き、子どもたちは、「誰でも快適に学べる場所を増やしてほしい」、「公的な援助の仕組みがあるといい」とまとめていました。

【旭川家具センター・桑原会長】:中学生 3 班

実際に訪問して気付いたことや、全員の感想を大きく書いたポスターで発表しました。旭川の誇る旭川家具がどのようなこだわりを持って作られているのか、旭川家具は修理して使い続けることができるという話を桑原会長からお聞きし、物を大切にすることの重要性や「ものづくりへの精神を受け継ぎたい」という思いについて知ることができました。



【旭川大学・高波先生】:高校生 1 班

お聴きた話を大学・ホスピスケアなどの項目に絞ってまとめ、その問題点と解決策をプレゼンソフトを使って発表しました。就職により旭川から人が出て行ってしまう現状から「旭川の魅力を増やすこと」「バスなどを充実させ、地域のつながりを強化すること」が必要だとまとめていました。

【カムイ大雪バリアフリーツアーセンター長・五十嵐さん松波さん】:高校生 2 班

五十嵐さんと松波さんから話を聞き、パワーポイントを自分たちで作成し発表しました。「障害者でも仕事やスポーツをするのは当たり前である」「必要なことは、私たちが障害を正しく理解し助け合うことだ」とまとめました。

○発表を終えて

どの班も、それぞれの年代らしい、工夫を凝らした発表となりました。

すべての発表を終え、旭川大学の栗田先生、教育大学の芝木先生、最後に座長の齋藤先生から講評をいただきました。

○3日目にむけて

これまでインタビュー先ごとの8班に分かれて活動していましたが、3日目の市長への発表に向けて、小学生・中学生・高校生の各世代が団結して活動することになります。

インタビューをして思ったことを中心に議論をし、そこから概ね10年後の旭川を考えます。

小学生グループは、旭川の好きなところ・良いところと、旭川に望むことに分けて意見を出しました。その後、意見を観光などのカテゴリーに分けて、特に叶えたい理想をみんなで投票して決めてい

ました。中学生グループは、大学生がまとめ役になり自由に意見を出し合いました。その中で、特に意見の多かった観光と福祉に焦点をあて、未来の旭川を考えていきました。高校生グループは、インタビューを受けて思った理想を付箋に書き込み、それをもとに話し合いを進めていました。たくさんの意見の中から、「社会的弱者」というところに焦点を置き、具体的に未来の旭川を考えていました。



次回予告

この日の活動では、それぞれ意見を出しテーマを決めるところまで進みました。

この2日間の活動を通して、グループ同士の友情は更に強まり、子どもたちの少し成長した姿を見ることができました。

3日目は、いよいよ『10年後の旭川』について、世代ごとにまとめ、市長に提言します。

子どもたちの様子を見ていると、自信に満ちており堂々と発表できると思います！